



議 会 だ よ り

18号
2023年(令和5年)
7月14日

国会議員への表敬訪問



6月7日 改選後、宮下一郎衆議院議員、牧島かれん衆議院議員（祖父が小松原出身）のもとへ表敬訪問しました。

第2回下條村議会臨時会 …… 2ページ
 第2回下條村議会定例会 …… 3ページ
 一般質問 …… 4～6ページ

新粒良脇トンネルを視察 …… 6ページ
 宮下一郎衆議院議員への表敬訪問… 7ページ
 初当選議員研修 …… 7ページ
 議長コラム・編集後記 …… 8ページ

第2回 下條村議会臨時会

◎改選後の初議会にて、正副議長、各正副委員長など役職が決まりました。
◎そば栽培関連トラクター購入契約の締結。

令和5年5月10日

令和5年第2回臨時議会は、5月10日に召集され、1日間の会期で行われました。
人事案件が1件、補正予算の専決が3件、条例の改正が3件、物品購入契約の締結1件が提出され慎重審議の結果議題のすべてを承認／可決し閉会しました。

▼人事案件

○監査委員の選任につき同意を求めることについて
・議会代表の監査委員について、福沢敏氏が選任され、審議の結果、同意いたしました。

▼条例の改正(専決処分)

○下條村税条例の一部を改正する条例について(専決処分)
・森林環境税導入に伴う改正、給与所得者の扶養親族等申告書の記載事項の簡素化に伴う改正、給与所得にかかる特別徴収額の納入義務などが主な内容で、令和5年4月1日付けで専決改正したものを承認しました。

○下條村国民健康保険税

条例の一部を改正する条例について(専決処分)
・後期高齢者支援均等割賦課税限度額について、現行の20万円から22万円へ引き上げることについて、おおよび特例対象被保険者等を証明する書類の追加などが主な内容で、令和5年4月1日付けで専決改正したものを承認しました。

○新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者に対する国民健康保険税の減免の特例に関する条例の一部を改正する条例について(専決処分)
・減免の特例は令和4年度で終了となりましたが、令和4年度末に資格を取得したことにより普

通徴収の納期限が4月以降となる場合を想定し、令和4年度までに課する納期限を令和6年3月末へ改定するもので、令和5年4月1日付けで専決改正したものを承認しました。

▼補正予算(専決処分)

○令和4年度一般会計(第7号補正) (専決処分)
《歳入歳出予算の増減なし》
資機材の納品の遅延などから、年度内執行が完了されない事業の繰越明許費の追加と基金積立額の精査による補正で、総務費で2事業、土木費で4事業、災害復旧費で2事業、計8事業、58,380千円を令和5年度へ繰り越すもの。6号補正にて決定した事業と合わせて、総計では10事業、72,113千円を令和5年度へ繰り越すもので審議の結果、承認しました。

○令和4年度国民健康保険特別会計(第3号補正) (専決処分)
《歳入歳出予算の増減なし》
一般被保険者療養給付費が2月以降の保険者医療費等の増加に伴い予算額が不足したため、基金積立金2,610千円から2,000千円を減額し、一般被保険者療養給付費へ2,000千円を増額したもので、審議の結果、承認しました。

○令和5年度一般会計(第1号補正) (専決処分)
《300万円を増額》
総額29億800万円に食費等の物価高騰に直面し、影響を特に受ける低所得の子育て世帯に対し、特別給付金を支給するもので、その実情を踏まえた生活の支援を行うことを目的に、児童扶養手当受給者や住民税均等割非課税の子育て世帯に対し、児童一人当たり5万円をプッシュ型で給付するもので、下條村では53名分の給付を見込んで

ている。5月末までに支給する旨の通達があり、4月20日付けで専決処分したもので、審議の結果、承認しました。

▼物品購入契約の締結

○令和5年度そば栽培関連トラクター導入事業物品購入契約の締結について
・農業の労働力及び担い手の不足により村内農地、そば畑の耕作継続が困難になることから、農作業の省力化を図り、村が推進しているそばのブランド化や村内の眺望を維持していくためにトラクター等を導入するものです。

株式会社オートパル いだ南部農機センターと4月28日付けで1,287万円の仮契約を締結したもので、納期は令和5年8月31日を予定しており、審議の結果、可決しました。

第2回 下條村議会定例会

◎下條村農業委員の任命につき同意しました。

◎下條村固定資産評価審査委員の任命につき同意しました。

会期 6月13日から6月20日まで

令和5年第2回定例会は、6月13日に召集され、20日までの8日間の会期で行われました。報告が1件、条例の改正が2件、条例の廃止が1件、人事案件が2件、村道路の認定が2件、村道路の変更が3件、補正予算1件、請願が2件、意見書の発議2件が提出され慎重審議の結果議題のすべてを承認／可決し閉会しました。

▼一般質問は、議員5名より

初日に行われた一般質問はP4以降に詳細が掲載されています。

▼条例の改正

○下條村職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

- ・適用対象職員の改正、旅費の金額改正が主な内容で、審議の結果、原案どおり可決しました。

○下條村国民健康保険条例の一部を改正する条例について

- ・国民健康保険運営協議会の決定に基づいて、令和5年度国保税率の均等割額を改定。医療分を18,760円から18,900円へ、介護分を9,520円から9,500円へ、平等割額について、医療分を15,750円から16,

500円へ、後期支援分を7,480円から7,400円へ、介護分を5,510円から5,000円へそれぞれ改正する内容で、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼条例の廃止

○特別職の職員で常勤の者等の旅費に関する条例の廃止について

- ・下條村職員等の旅費に関する条例と同一の内容であることから、条例の体系整理のため同条例に包含することに伴い廃止するもので、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼人事案件の承認

○農業委員の任命につき同意を求めることについて

- ・農業委員の任命は「市町村長が議会の同意を得て任命する」とされており、認

定農業者又はそれに準ずる者が「委員の過半数を占めなければならない」と規定されているが、今回の候補者12名中7名が該当し規定に達している。全員賛成により同意しました。(任命された委員は直近で発行される広報誌もじょうに掲載予定)

▼下條村固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めることについて

- ・3名の委員のうち、申原重久氏が6月30日をもって任期満了となり、後任に古田浩茂氏(西部)を任命することに同意しました。

任期は、令和5年7月1日から令和8年6月30日までの3年間です。

▼村道路線の認定

○下條村道路線の認定について

- ・新設道路改良により北平・中平地籍と北又地籍の2路線を村道として認定することについて、審議の結果、可決しました。

▼村道路線の変更

○下條村道路線の変更について

- ・道路改良により終点の異

動が生じたことから、北又地籍、休戸・北又地籍、山一東地籍の3路線の変更に伴って、審議の結果、原案どおり可決しました。

▼補正予算

○一般会計(第2号補正)

《6,200万円を増額》
総額29億7,000万円に

【歳入の主なもの】

地方交付税に3,319万円、新型コロナワクチン接種国庫負担金1,617万円、同補助金で1,265万5千円などを増額。

【歳出の主なもの】

衛生費では、ワクチン接種関連経費2,882万5千円の増額、商工振興費では事業者向けの物価高騰対策支援として事業所の従業員規模に応じた給付費で1,420万円の増額、保育所総務費では、保育所専任の栄養士採用関連で193万3千円の増額、公園管理費では入登山神社トイレ設置工事費で500万円の増額。事前にその内容の詳細を各課課長より説明を受けたうえで審議に臨み、原案どおり可決しました。

【請願】

「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書について

社会文教委員会に付託、審議の結果「採択」され、本議会においても「採択」されました。

「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める請願書について

社会文教委員会に付託、審議の結果「採択」され、本議会においても「採択」されました。

【議員発議】

- ・「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書

【可決】

- ・「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める請願書

村内の公共施設および民有地における緑化の推進について

Q 下條村の魅力向上のために、公共緑地の質の向上と村民による緑化の推進が重要と考える。

A 次世代に引き継ぐ重要なファクターである景観形成は、人の手が入ることから始まる、知恵を絞って取り組んでいきたい。

Q 道の駅上の村道 52 号線には、村木のハナノキを植えた貴重な街路樹があるが、管理状態が悪く景観や交通安全の面で問題がある。この道路の建設の経緯と今後の整備方針は？

A コスモスの湯やリフレッシュパークの開設に合わせ、そのアクセス道路として建設された。道路緑化の機運が高まった時期に植栽されたが、次第に管理が行き届かなくなってきた。今後は、定期的な維持管理のできる業者などに委託して、環境整備を実施していく。

Q 村民が民有地での緑化に取り組むことを促す方法として、①軽井沢町の「緑の景観賞」のような優良事例を評価・表彰する制度の創設②『公報志もじょう』への緑化に取り組む個人や団体の紹介記事の掲載。③緑化活動の現場に取組内容を紹介する看板の設置、の3点を提案したい。

A 「緑の景観賞」は、村民の緑化参画を促す手法として下條村でも参考になると考える。これらの提案内容も盛り込み、村民が主体となって、無理なく魅力ある景観づくりができる景観指針を、本年度中に策定したいと考えている。



福沢 敏 議員

教育委員会でファミリーサポートを行うと 広報されていたが、どう準備が進んでいますか



宮嶋 成子 議員

Q ファミリーサポートセンターは必要ではないか。他地域では社協や子育て支援センターが担っているようだが下條村はどう進めているのか。

A 昨年9月にファミリーサポートセンターを設立し、村内にチラシを配布したが利用の申し込みがない。もっと丁寧に周知を図り、潜在するニーズの把握に努めたい。本年度は「第3期子ども子育て支援事業計画」を策定する年にあたる。ニーズ調査を行ったうえで子育て支援事業を総合的に改めて検討し実施するよう努める。

Q 子育ては、子どもを中心に親、地域、学校など他者が一点で交わる輪になって行うのがよいと考えるが、下條村ではそうした環境を整えているか。

A 暮らし方、働き方の変化から地域コミュニティは弱体化し、従来地域が担ってきた課題解決の合意形成ができなくなり、行政や専門家に委ねられることが多くなっている。子どもを中心とした村づくり・地域づくりのため、子ども・子育て世帯と地域住民が交流する機会を多くし、孤立した家庭をつくらない、地域全体で子どもを見守り共に育てるといった機運の醸成に努めたい。

村の人口減少対策について

Q 出生数の傾向をどの様に評価しているか、また対策はどの様に考えているか。

A 平成15年から19年の合計特殊出生率は2.04で出生数は平均46.6人。直近5年の出生数平均は23.8人と約半数で昨年の合計特殊出生率は1.71。(国は1.26と過去最低)少子化傾向は全国的な課題であり村としても可能な限りの対策を講じて少子化の流れを緩やかにしていきたい。地方の若者回復率で特に女性のUターンがカギと捉えている。



田中兼次 議員

Q 社会動態において転出超過の抑制をどの様に考えているか。定住施策の一つとして住宅用地確保の推進も必要では。

A 村では徹底した行財政改革と住民参加協働等で子育て支援・定住促進予算を確保し若者世代の移住に繋げてきた。今後も総合的に優位性の高い各種支援や補助事業により子育て支援に注力していく。

住宅建築の現状は道路条件の良い地域で特に進んでいる。その様な地籍での更なる建築対応の為、村道の新設改良を計画している。また遠矢戸地籍の宅地化も検討しており、事業化に向けて地権者の賛同が得られる様取り組んでいく。また定住施策として空き家の利活用が効果的と考えて専門的知見のある集落支援員を採用し集落課題対応など空き家の再利用に繋げたい。

買物のにぎわいを創り、自然の中で豊かな体験ができる元気な村に



丸山浩子 議員

Q 閉店したショッピングひさわの再開について村の対応の進展、支援の方向は？

A ・3月下旬、自己破産申請が裁判所に提出され、今後法的処分がなされる。
・村政懇談会等を通じて、不便さ、要望を聞いている。村からサービス業が減るのは活力が失われることに繋がる。活性化に向けた取り組みを行う。
・同規模、同業種の営業はバック人口の減少する中で難しい。今後、再開後利用可能な事業者への打診を行うが、持続可能を最優先にする。
・買物弱者支援…阿南町の店舗へ月・水・金4便運行。

Q 自然の中で生まれ五感を磨ける「子どもの森」を創りたいが如何か？

A 近年「山保育、森保育」など自然環境を活用した体験活動を取り入れた保育・教育が注目されている。質問にあった広い村有地(細野原元栗園)は移動距離、整備費、維持費を考えるとふさわしくない。子どもたちが木や草、土に触れて遊べるもっと適した場所がある。

「信濃路下條そばの城」利用状況及び今後の利用対策について

Q 新型コロナウイルスが五類感染症に移行したが昨今の状況を確認したい。

A 令和2年当初からコロナウイルス感染症が蔓延し、移動制限、行動自粛等の処置がとられそばの城においても影響を多大に受け来客数は激減し、非常に困難な営業を強いられたが感染症法上の位置づけが五類感染症となりコロナ前より来客数、販売金額とも増加している。
光熱費高騰など経常経費の増加など尚予断の許さないところだが、地元地域の活性化を図るべく事業展開している。
村民の方にも訪問していただき、更に多くのお客様の勧誘等にも一役かっただきたい。



熊谷利治 議員

Q リニア残土処理計画に基づき、そばの城周辺の利用計画について

A 今年度中に村民参加の一環として、村民へのアンケートを実施し、意見を集約した上でコンセプトに基づいた素案をそばの城の改修も含め作成します。令和6年から7年にかけて外部の学識経験者や周辺施設関係者等で協議を重ね基本計画を策定、計画審議会を設置しリニア残土埋め立て工事の進捗状況を把握しながら事業実施に向けた体制を整えていきたい。

新粒良脇トンネルを視察



6月6日(火)新体制になって初の議員全体会議後、新粒良脇トンネル工事の進捗状況を理事者、担当課職員、全議員で視察しました。

令和3年2月末に着工したトンネル掘削は順調に進み同年12月7日には貫通式が挙行されました。その後の工事経過は起点の粒良脇側国道と天竜公園阿智線の接続や終点側の山田河内交差点までの工事が設計変更や資機材の納入遅れ等で完成予定の工期が大幅に遅れており今年中から今年度中の完了を見込んでいます。トンネル内

は電気設備工事を残すのみでほぼ完成状態で延長547mを全員で歩いて踏査しました。現在の粒良脇側の付け替え国道箇所や山田河内側の接続付近は狭隘で車の運転には十分な注意が必要です。通行者の安全確保の為に早急な対応を望みます。

(田中兼次)

宮下一郎衆議院議員を表敬訪問 「農地が生かされ、所得が上がる農業を」

去る6月7日、議員 9名は金田村長と共に、東京都千代田区永田町の衆議院第1議員



に、東京都千代田区永田町の衆議院第1議員 会館に宮下衆議院議員を表敬訪問いたしました。

氏はあいさつ後、6月2日の豪雨被害について尋ねられ、村長が報告。昔と違う雨に、対策を見直していかねければならないと言われました。

次に蕎麦振興議員連盟の会長であることに触れ、下條村のそば栽培から農地利用や担い手の話題、また国のみどりの食料システム戦略にも言及。有機農業で海外に輸出できる農作物加工品、インバウンドを見越した観光農業など、農地が生かされ生産者の所得が上がり若い人が農業を続けていけるよう戦略をたて臨むようお話しいただきました。

初当選議員研修
初めての自治会館、訪ねたことがない所に
出向く日はワクワクします。

朝9時に下條村役場に集合し職員同行のもと新人3名が出席しました。長野県の77市町村から145名の新人議員が集まり、長野市にある自治会館の大会議室で研修を半日受けました。我々の席は後方中央のため大会議室が見渡せると同時に長野県新人議員の真剣な姿から発する気迫を感じられ、私自身も長野県の村議会議員である



豊かな自然と子どもの学びの環境を整えアピールしてほしい、都市に住む若い人たちにこそそういったニーズがあるから、とお話しいただきました。
(宮嶋成子)

いう500ページにわたる議員辞書を持参し、都度講義中に利用しながら学びました。私が特に独特と感じたのは、議会での発言時に自分の氏名ではなく、議席番号を使用するところ。名前を言わないのは、その人(名前)に左右されずに公正に議論するためだそう。納得です！また一般質問の準備には先輩議員の「持ち歌」には要注意です、であるとかユーモアある講義でした！
(熊谷美和子)





議長コラム

南信州広域連合議会臨時会

今年4月に、統一地方選挙が行われた事を受け、南信州広域連合議会の第1回臨時会が5月29日に飯田市エス・バードで開催され、正副議長及び常任委員会委員の改選が行われました。

議長には、飯田市議会議長の熊谷泰人氏、副議長には、阿南町議会議長の栗生勝由氏が選任されました。

私は医療福祉委員に選任をされました。

今後、南信州地域の1市3町10村及び関係機関との連携を深め、連絡調整を図り地方自治の振興発展のため取り組んでいきます。



長野県町村議会議長会臨時総会

県町村議会議長会臨時総会が、6月2日長野県自治会館で開催されました。

会長には、王滝村議会議長の下出健介氏、副会長には、小海町議会議長の有坂辰六氏が選出されました。理事については県内4地区から選任され、南信地区からは、阿南町議会議長の栗生勝由氏（下

伊那町村議会議長会長）が選任されました。県内には23町35村がありますが、下伊那地域には3町10村があります。面積が広大だということもありますが、この地域を大切にしたいという思いが強いのだと感じさせられます。

今後、県内町村議会の連携を深め、議会の円滑な運営と、地方自治の振興発展に寄与することを目的に、研修会の開催や政策要望活動に取り組んでいきます。

国道153号線飯田南バイパス整備促進期成同盟会総会

総会は6月16日飯田市勤労者福祉センターで開催されました。

国道153号線飯田南バイパスは、今年3月に国交省から新規事業化として認可され、本年度より新規着



工に向けて事業着手することになりました。

期成同盟会長の佐藤健飯田市長は、「2011年から関係者が活動してきた成果」と言い、「引き続き予算確保のために要望活動を進めて行く」と述べました。

この道路は、飯田市竹佐から飯田市北方に至る4・5kmのバイパスです。開通すれば、下條村から阿智村を経由して飯田市内へ、更にはリニア駅へのアクセス道路として大いに期待されます。

下條小学校音楽交流会

6月23日、小学校の音楽交流会が開催されました。4年ぶりに全議員が招待され参加しました。日頃の練習の成果を発揮し、楽器演奏や合唱を精一杯発表する健気な姿に感動しました。

最後に、全校生徒で合唱した「翼をください」は、素晴らしい合唱で迫力もあり、大きな感動をいただきました。



編集後記

6月2日から3日にかけての豪雨は、本村で2000ミリを超えました。一時はバケツを引つ繰り返したような強烈な降り、子ども達の頃の三六災害を思い出しました。

全村で、道路、河川、水路や農地など合わせて70余件の災害があったと報告がありました。各地区の連絡員が、タブレット端末で現場を撮影して村への送付、状態が迅速に把握でき、村での至急な対応に繋がったとのこと。人的被害、住宅被害がなく、村営水道施設も無事で、日常生活に大きな支障がなかったことは幸いでした。

異常気象が常態化し、7月に入って九州地方の大雨・洪水・土砂災害が続いていて、その惨状は目を覆いたくなるほどです。自然の力には抗えないけれども、減災のために万全の準備をしなくてはと、肝に銘じています。

さて、4年ぶりのしもじよっ子まつりが近づきました。今年こそ開催でき、村の皆さんのたくさんの笑顔に会えますように。

(竹村宗次)

編集委員会

- 委員長 竹村 宗次
- 副委員長 丸山 浩子
- 委員 田中 兼次
- 委員 熊谷 利治
- 委員 熊谷美和子
- 委員 宮嶋 成子